



## ●回転混色ワークショップ盛況のお礼

去る6月24・25日、緑滴る東京造形大学での日本色彩学会全国大会にて「ワークショップ：色独楽で遊ぶ——回転混色の研究史と新たな色彩教育の可能性」を開催いたしました。貴重なお時間を割いてご参加くださった方々には、心より感謝申し上げます。

ワークショップは、ベンディングゴマ体験に加え、北畠耀顧問の「主観色余話」（2021年）も自ら回転装置を使ってレクチャーいただき、参加者には一粒で二度も三度もおいしい機会になったと存じます。

会場には、北畠・永田両顧問の研究成果をはじめ、多様な回転混色器・回転盤も壁いっぱい展示し、ワークショップ時間外も、来場者に体験いただくことができました。

今回の内容は、今年度のうちに都内でアンコール開催する予定です。 (山根千明)



## ●城一夫名誉会員を偲んでー 13

城一夫著 「大江戸の色彩」 青幻舎発行  
2,500円+税 初版:2017年1月9日

2003年に著者が企画・構成を担当されたDIC(株)主催の展覧会「大江戸の色彩展」の趣旨を活かし、江戸時代全体の色彩に焦点を当て、色で江戸時代を読み解いた書です。

時代の流れを大切にしながら歴史的背景を絡め、色彩を通して江戸の風景、催事、文化、服飾、絵画、草双紙、陶磁器、美意識、流行、行事など多方面に亘り詳細に解説されているので江戸時代にタイムスリップしたかのように当時の情景がありありと目に浮かびます。

江戸といえば「奢侈禁止令」。そこから生まれた「四十八茶百鼠」。美意識の反映による「いき」の色彩の印象は強いものがありますが実際は、“江戸の町並みは無彩色の地味な色合いでも1年の内の大多数の日がハレの日であり華やかな色彩で彩られていた”ようで、江戸に生きた人々に思いを馳せ、その事実にあぐらをかいています。

文献からの考察も多く、一つ一つの内容が丁寧に深められている本書からは、著者の色彩を通じた文化への深い愛、そして妥協のない誠実なお人柄を強く感じます。

(小坂真由美)

## ●大辞泉ひろいよみ 25ーう

**移し色**: 移し花(ツユクサ)で染めた薄い青色。  
**移し草**: 染料にするところからツユクサの別名。

**移し花**: ツユクサの花の汁を紙に移して染み込ませたもの。染料として用いた。青花。

**空五倍子色**: うつぶしいろ。ヌルデからとった空五倍子で染めた色。薄墨色。

**空五倍子染め**: 空五倍子色に染めること。また、染めたもの。

**映り・写り**: 影や映像が現れること、また、現れぐあい。色や物の取り合わせ、つりあい。調和。光が当たって照り輝くこと。

**卯の花威**: 鎧の威の色の一。白色であるのを卯の花に見立てての名。白糸威、白唐綾威。白革による洗い皮威など。

**卯の花襲**: 重ねの色目の名。表は白。裏は青。陰暦四、五月に用いた。

**鵝の目硫黄**: 薄紅色を帯びた黄色の光沢のあるある硫黄。

**烏梅**: うばい。梅の未熟な実を干して燻製にしたもの。漢方で下痢止めや駆虫などの薬とし、また染料にも用いる。

**烏羽玉**: ヒオウギの実。丸くて黒い。ぬばたま。黒いところから、黒・闇・夜・夢などのかけ言葉。 \*大辞泉:小学館発行国語辞典(永田泰弘)